

ひとづくりへの小さな役割

「地方で不足しているのは、人材だ」とよくいわれる。一面ではその通りと思う。だが、そうではない点もある。それは能力とやる気を持つ人の出現を拒む体質があること。せっかくの人材を放って置く手はないと思い、いろいろな試みをしてきた。

私の役割とは、隠れた人材を発見して、「人材」とすることにあると、勝手に思っている。

まず、地域に入り込んでいく。そこで多くの人と知り合う。次に、いろいろな場面と一緒に経験をしていく。そうしたうちに、「この人は、できる」という人に会おう。ところが、そういう人に限り、表に出たがらない。いわば、地域の「掟」なるものを知りつくしているからである。

そこから私の出番。「みなさん、この人をコレから中心にして、がんばりませんか」という提案をしていく。当然に、これまでの前例にないことで冷たい視線を浴びることになる。地域では、丸く取めることが前提。年長者や役職者がトップの座に着く。これでは物事は進まない。そこで、波風の立つのを承知で、「この人を選任して、みんなで盛り立てましょう」と提案。洪々の了承で、とりあえ

論壇

地域づくりの前にひとづくりを

市原 実 聖学院大学講師（前山梨県立大学教授）



ずは落着

その後が大変。本人は、晴天の霹靂で、心の準備もなしのスタート。まずは成功の体験が必要と、一緒に計画を立て、悩みながらも、実行していく。小さくてもいいから、まずは成功が大切。これで自信に。

こうして成功体験を積み重ねていく。すると、それまで懐疑的であった人々も、次第に協力してくださる、というのが私のシナリオ。幸いにも、いい人材が出現したということが何回もあった。

見つからぬ時は、スカウト

人材が見つからぬ場合は、他から連れてくるという方法がある。よくいうスカウトである。しかし、この方法は簡単ではない。というのは、その人の生活の保障が必要になるからである。いい人が見つかったても、「遊びに来て下さい」というわけにはいかない。

生活の保障をする場合は、人件費を払える行政か、公的機関に限定されてしまう。事例では、和歌山県高野町が「むらづくり支援員」制度で公募。町の集落に住みながらまちづくりをするというもの。3年間で、月額15万円の報酬と家付きが条件。

公的機関では「伊豆稲取温泉組合」で



山梨県立大学の公開観光講座

の事務局長公募の例が有名。東京でNP
O活動をしていた女性が選任されてい
る。任期は2年間であったが好評で、今
は期間を延長中である。年俸700万
円。住宅付き。

問題となるのは、NPO団体とか任意
団体の場合であつて、人件費を払うだけ
の余力がない時である。この時は、金銭

抜きか、ほとんどボランティア的か、手
弁当的で来て下さる人を探すことにほ
かならない。この場合は心情的に「想い」
を共有できることが前提。定年退職者な
どの善意に期待したい。

人材を人材に育てる

人材がいなければ、最後は、育て
るしかない。「育てる」といっても
簡単ではない。誰を対象に、どの内
容を、どんな方法で、どれほどの期
間・費用をかけて実施していくの
かも分からないのが本音のところ。

実は、私は、山梨県のNPOと
組んで、人材の育成の講座を開設
した。毎月1回の6回のコース。
費用は9000円。つまり1回が
1500円。募集人数20人。対象は
定年退職された人。内容は地域の
資源を活用して商品開発・販売とい
うもの。

結果は、人数が所期の予定に達
しなかったことと、履修後の活動
の場が設定されていない、という
指摘で、その後の展開が続かなか
ったことでした。確かに、この種の
講座は公的機関が無料か、それに
近い廉価での実施が普通。そこに
風穴を開けて、受講生の自主性に

期待したものの、やや時期尚早の感が強
かった。

そこで、私の提案は、次の点。

①多くのメンバーを他所に行かせる

自分たちだけの世界にいるのではな
く、他の事例を見る機会をつくること。
交通費と宿泊費は負担しても、講習費は
無料に近いものが数多く開催されてい
る。これに参加することで、他の地域で
がんばる人に学ぶことができる。

②専門講座を探し、受講させる

ある専門分野やテーマで、研修や講座
が開催されている。公的団体が、例えば
「農商工連携コーティネーター養成講座」
などのように専門知識を身につけられる
内容。この場合は一部自己負担も考慮さ
れてもいい。

③他の地域からゲストとして招く

すでに、活動を活発にしている地域の
人を招き、話を聞くのも良い方法。

④他の地域で、実習をする

成功の事例に学ぶとして、実際に、そ
の地域に入り込み、体験していくのも有
効である。

「まちづくりは、ひとづくり」といわれ
るように、地域活動は「ひと」が基本で
ある。その意味でも、有能な「ひと」を発
掘し、大きく育てて生きたい。